

香港国際空港について

香港国際空港のはじまり

香港国際空港は、香港の中国返還にあわせて 1997 年に開業すべく準備が進められたが、実際に新しい香港の玄関口としてグランドオープンしたのは 1998 年 7 月 6 日。それまでは市内の九龍城近くにあった啓徳空港が使われていたが、市内に近い分手狭になってしまったことから、中心部から 40 キロ程度離れたランタオ島にある現在の空港に移転することとなった。

運営実績

香港国際空港の年間旅客処理能力は 2014 年に 6,000 万人を突破、2016 年には 7,000 万人に達した。香港空港管理局によると、2018 年通期の旅客数は人口のおよそ 10 倍にあたる延べ 7470 万人（対前年 2.5%増）、発着回数は延べ 42 万 7725 回（1.7%増）、貨物取扱量は 510 万トン（1.5%増）に上り、いずれも最多記録を更新した。

施設

（滑走路）

滑走路は、オープン・パラレルで海側と陸側とに 2 本が整備されており、両滑走路両端に ILS が設置されている。運用は原則として海側の滑走路で着陸機、陸側の滑走路で離陸機の処理が行われている。また、2023 年までの完成を目標に海側滑走路の近隣を埋め立てて第 3 滑走路の建設が進められている。193 億ドルという莫大な事業費が見込まれているが、完成後は年間旅客 1 億人・発着回数 62 万回と世界有数の規模を収容できる予定という。

（ターミナル 1）

49 ヶ所の搭乗ゲート、およびバス搭乗ゲートがある。デザインは、イギリスの著名な建築家であるノーマン・フォスターによる基本計画をベースに空港公団による実施設計と設計監理が行われた。日本の前田建設工業、英・中の企業の 5 社の JV で施工。

（ターミナル 2）

2007 年 2 月 28 日に開業した、出発専用のターミナルである。出国審査後、ターミナル 1、ミッドフィールド・コンコースにある搭乗ゲートとは地下の鉄道で連絡されている。出発時にターミナル 2 を利用する航空会社でも、到着時の入国審査等はターミナル 1 を利用する。今後の拡張に備え、到着ターミナルとしても機能する設計になっている。130 を超える店舗が揃っているショッピングモール「スカイプラザ」や、飛行機をテーマにした博物館「アビエーション・ディスカバリー・センター」などの施設もある。

世界の空港ランキング 2019 で 5 位にランクイン

世界の航空・空港の格付け調査を行なうスカイトラックスが発表した「世界ベスト空港 2019 (World's Best Airport in 2019)」で、総合 5 位に香港国際空港が選ばれた。部門別では空港での食事部門と出入国審査のベスト空港部門で 1 位、空港での買い物部門で 2 位、乗り継ぎでのベスト・エアポートで 3 位に選ばれている。総合ランキングは以下の通り。

世界の空港トップ 10 位

- 1 : チャンギ空港 (シンガポール)
- 2 : 羽田空港 (日本)
- 3 : 仁川国際空港 (韓国ソウル)
- 4 : ドーハ・ハマド空港 (カタール)
- 5 : 香港国際空港 (香港)
- 6 : 中部国際空港セントレア (日本)
- 7 : ミュンヘン空港 (ドイツ)
- 8 : ロンドン・ヒースロー空港 (英国)
- 9 : 成田国際空港 (日本)
- 10 : チューリッヒ空港 (スイス)